

建築物石綿含有建材調査者講習 過去問題

1, 建築物石綿含有建材調査に関する基礎知識2

(各5点 = 25点)

問題 1 改修及び解体の事前調査において調査目的の主な内容について共通しない調査種別はどれか

- 1 目的
- 2 対象部屋
- 3 取り外し調査かどうか
- 4 高所・有毒ガスなどの危険区域

問題 2 石綿含有建材調査者の役割について誤っているものはどれか

- 1 解体・改修工事時や建築物利用時において石綿が健康障害を引き起こすリスクを回避する調査をすること
- 2 調査した建築物に石綿の含有について有無を判断すること
- 3 調査した建築物の調査報告の情報は広く公表し所有者を含めた利害関係者に理解させること
- 4 調査の報告内容に対し正確を期し、利害関係に揺るがず中立性をもって実施すること

問題 3 石綿含有建材調査者が行う調査の留意点について誤っているものはどれか

- 1 発注・受注の関係によって、意図的に事実と反する調査を行ったり、調査結果の報告を行ってはならない
- 2 発注者である建物所有者からの受注に際しての要求事項として、入居者への不安等の排除があった場合は所有者への不利益にならないように調査を行う
- 3 調査者は、いかなる場合においても調査活動を通じて得た情報の漏洩は防止しなければならない
- 4 石綿に関する建築物調査においては、占有者などの健康リスクを回避するための十分な配慮をした調査計画と実行が求められる

問題 4 石綿含有建材調査者に要求される事項について誤っているものはどれか

- 1 建築物などの施工手順や方法に関する基礎知識を有する
- 2 建築物などに使用されている建材の採取方法などに関する基礎知識を有する
- 3 石綿分析技術に関する基礎知識を有する
- 4 石綿分析結果の観察力を有する

問題 5 事前調査の具体的な流れの項目で誤っているものはどれか

- 1 設計図書等の書面調査で図面等の照合を行う
- 2 現地調査のための事前準備として書面調査の整理、石綿含有の有無の仮判定を行う
- 3 書面調査をもとに外観観察、各部屋調査、現物確認を実施し分析により石綿の有無の判定を行う
- 4 現地調査と書面調査に差異があった場合は、書面調査を優先し、みなし含有判定、分析による含有・無含有の判定は報告書にまとめる

2、石綿含有建材の建築図面調査

(各5点 = 25点)

問題 1 建築基準法に定められていない防火区画はどれか

- 1 面積区画
- 2 水平区画
- 3 竪穴区画
- 4 異種用途区画

問題 2 建築物の石綿の使用目的として誤っているものはどれか

- 1 吸音
- 2 断熱
- 3 仕上用
- 4 冷房

問題 3 レベル1の乾式石綿含有吹付けロックウール製品名について適当でないものはどれか

- 1 スプレーテックス
- 2 タイカレックス
- 3 ミネラックス
- 4 サーモテックス

問題 4 建築物設計図書のうち石綿含有建材の情報があるものついて適当でないものはどれか

- 1 矩計詳細図
- 2 特記仕様書
- 3 基礎伏図
- 4 内部仕上表

問題 5 次の建築シンボルで正しいものはどれか

ER

- 1 自動閉鎖装置
- 2 熱感知器
- 3 煙感知器
- 4 点検口

3, 現場調査の実際と留意点

(各5点 = 25点)

問題 1 調査者の労働安全衛生上の留意点として石綿の飛散防止対策において適当でないものはどれか

- 1 必要に応じて養生を行う
- 2 試料採取時は扉・窓等は閉め切り、換気扇などは停止する
- 3 試料採取時に粉じんが舞う恐れがある場合は、HEPAフィルター付き真空掃除機で試料採取後吸引する
- 4 試料採取後は使用した工具に付着している粉じんをウェットティッシュなどで拭き取る

問題 2 成形板の裏面調査の項目について適当でないものはどれか

- 1 企業名、建材名
- 2 組成表、成分分析
- 3 認定番号、ロット番号
- 4 認定番号、省庁認定

問題 3 建材別の試料採取について適当でないものはどれか

- 1 基礎仕上材料
- 2 耐火被覆材
- 3 成形板
- 4 建築用仕上塗材

問題 4 石綿則に基づく事前調査のアスベスト分析マニュアルに記載された分析法で適当でないものはどれか

- 1 偏光顕微鏡法
- 2 位相差分散顕微鏡法
- 3 繊維状粒子自動測定器
- 4 電子顕微鏡法

問題 5 調査者による分析機関の選定について適当でないものはどれか

- 1 石綿含有建材の精度管理プログラムを扱っている
- 2 分析技術者の教育計画と教育記録の実施を行っている
- 3 石綿含有建材の検査数が他の分析機関より多い
- 4 外部機関技能試験及び技能向上講習の参加が顕著である

4, 建築物石綿含有建材調査報告書の作成 (各5点 = 25点)

問題 1 調査報告書の記入における対象物件の概要について適当でないものはどれか

- 1 施設名、竣工年、文書の記録
- 2 建築所在地、分類、規模
- 3 建物構造、用途
- 4 調査対象材料、調査方法

問題 2 調査詳細報告書の診断について判断根拠で適当なものはどれか

- 1 材料レベル
- 2 国土交通省・経済産業省石綿含有建材データベース
- 3 石綿の種類
- 4 添付書類

問題 3 分析試料一覧表の注意すべき項目について適当でないものはどれか

- 1 採取場所は3つの部屋にまたがる場合がある
- 2 採取物建材名は竣工図に書かれている建材名に合わせる
- 3 竣工年月においては、改修工事が行われていても当初の年月とする
- 4 試料採取日、採取者資格は、採取した者の姓名と資格とする

問題 4 調査詳細報告書の添付資料（判断根拠）の記入について適当でないものはどれか

- 1 試料番号
- 2 建材情報
- 3 建材の商品名
- 4 製品等の写真

問題 5 維持管理における石綿調査報告書等の留意事項として適当でないものはどれか

- 1 粉じん飛散が生じやすい石綿等、断熱材、耐火被覆材、保温材を対象とするのが基本である
- 2 全館全部屋を対象とすることが基本である
- 3 調査できなかった部屋、箇所については平面図等に記載し、その理由を記述する
- 4 石綿粉じん飛散リスクを評価する上では劣化に関する記載は必要ない